

当社取締役会の実効性の分析・評価結果の概要

当社は、取締役会の実効性を高め、企業価値を向上させることを目的として、2019年度より「取締役会の実効性に関する分析・評価」を実施し、当ホームページ上で公表しております。

今般、2022年度分の実施結果がまとまりましたので、その概要を公表いたします。

1. 評価の方法

「取締役会評価に関する質問票」を全取締役(社外取締役を含む)および全監査役(社外監査役を含む)に配付、回答を得ました。その上で、回答の集計結果に基づき、取締役会において積極的な議論を行い、その実効性に関する分析および評価を行いました。

【実施時期】2022年3月～5月

【回答者】取締役および監査役(社外役員含む、計11名)

【内容】方式：記名式によるアンケート形式(設問内容は前年から一部改訂)

設問項目：Ⅰ. 取締役会の構成・規模について(設問数：7→8問)

Ⅱ. 取締役会の運営について(設問数：9→6問)

Ⅲ. 取締役会の付議事項について(設問数：5問)

Ⅳ. 取締役会の役割・責務について(設問数：9→7問)

Ⅴ. 取締役会への情報提供・支援体制について(設問数：7問)

Ⅵ. 株主・投資家との関係について(設問数：2問)

2. 分析評価結果の概要

(1) 当社取締役会は、アンケートの分析結果およびそれに関する取締役会での議論に基づき、以下の点について、前年同様、取締役会の実効性が十分に確保できているものと分析・評価しております。

- ・取締役会の全体的な規模・構成は概ね適切であり、高い経験や見識を持つ役員がほぼバランスよく配置されていること。
- ・取締役会では適時・適切に報告・議論される仕組みは概ね整備されており、議論も自由闊達に行われており、適切に運営されていること。
- ・取締役会・監査役会と執行部門との連携に問題はないこと。

(2) 前年の回答と今年の回答で、以下の点については若干変化が生じております。

①改善傾向にあるもの

- ・社外を含めた取締役の人数や、社外取締役の割合。(昨年は社外を2名から3名に増員しました。)
- ・取締役会の開催日等の事前スケジュール化が定着している。

②新たな課題として認識できるもの

- ・女性役員の登用に関する議論が必要。
- ・実質的な審議時間のさらなる充実が必要。
- ・SDGs／サステナビリティに関する議論をさらに充実させるべき。

(3) 今後も改善に取り組むべき点としては、次の点が主に挙げられました。

- ・中長期的な事業戦略等に関する議論の機会の充実
- ・経営陣幹部の選解任に関する議論の深化
- ・外部専門家からの助言も含めた、役員向けの研修、トレーニング機会の充実
- ・取締役会付議事項について、議案の選定段階から見直しによる、更なる検討時間確保
- ・従来からのリスクに加えて、新たなリスクに関するリスクテイクの議論の深化

3. 今後の対応について

当社取締役会は、上記分析・評価結果を受けて、以下の施策を含め、2022年度を通じて更なる改善を実施してまいります。

また、今後も継続的に取締役会実効性評価を実施し、当社にとって最適なコーポレートガバナンス体制を構築してまいります。

(1) 短期的取り組み

- ①女性役員の登用に関する議論と実践
- ②取締役会における気候変動リスクを含めた SDGs／サステナビリティへの議論の強化
- ③役員向け研修機会の充実

(2) 中期的取り組み

- ①取締役会における経営戦略や中期事業計画等の議論の深化
- ②代表者の後継者育成に必要な仕組みづくりに関する議論の実施
- ③経営陣幹部の指名・選解任の手続きに関する仕組みづくりの議論

以 上